

私たちは試されている。今回の旅で強く印象に残った言葉である。仙台に着いたとき、雨模様の曇り空のせいか、私の中で重苦しい空気が流れていた。最初の視察地、女川の復興まちづくり情報交流館に案内され、当時の状況、そして、現在変わりゆく町についての説明を受けた。その後、新しくなった女川駅に寄った。そこで偶然に見つけた魚の形のキーホルダーを買うことにした。「小さな復興プロジェクト」による木製のキーホルダーだ。漁業の町、女川を訪れたいい記念となった。その後バスに戻り、女川を後にするとき、「女川は流されたのではない、新しい女川に生まれ変わるんだ」と掲げられた横断幕が目に入った。その後、バスの車内から初めて北上川を見たとき、この川はすべての思い出を知っていると悲しい川に思えた。その後は語り部さんのお話をバスの車内で聞きながら、石巻地区を視察した。3月11日の夜から12日にかけて、もう朝がこないのでは、人生の中で一番長い日だったという言葉が印象的だった。宿泊地に着き、勉強会の折、ささ圭さんご夫妻から、貴重なお話をきくことができた。何もかも無くなってしまった震災後、もう廃業するほか前にも後ろにも進めない状況がやってきた。けれども、ご主人のこのままでは終われないという思いを何とか貫こうと決意し、私たちは試されているんだと思い、その後、かまぼこづくりを再開し、事業を再建されていった経緯をきき、心から感動した。ふと、当日乗る予定だった飛行機が欠航になってしまい、ツアー参加が危ぶまれた自分の状況を思い出した。この先、いろいろなことが起きたとしても、それはその時々で自分たちが試されているのだと思い、立ち向かっていけばいいのだ。大きな勇気をもたらした瞬間であった。

翌朝、集合時間までの間、近くにある観光名所である瑞巖寺と円通院を訪れた。ある意味ついでに訪れた円通院の門をくぐった瞬間、別世界が広がった。枯山水の庭に美しく色づく赤い紅葉、人生で忘れられない光景となった。その後、遊覧船に乗り松島湾を巡り、塩釜港に到着し、昼食のお寿司を頂いた。そして、この日の視察地、閑上地区の日和山に着く頃、空がだんだん明るくなって虹が現れた。空に半分だけかかった未完成の虹、これからまた生まれ変わろうとしているこの町の未来を感じた。ただ、慰霊碑に書かれた名前の多さに言葉を失った。その後、「閑上の記憶」を訪れ、震災直後の映像を見せてもらった。こちらでは現地の閑上あみーずによる手づくりのクリスマスオーナメントを購入した。最後に笹かまぼこのささ圭さんに立ち寄り、手焼き笹かまの体験をさせて頂き、とても楽しいひと時となった。招き猫を集めている私は開運と書かれた招き猫を記念に買うことにした。帰宅後知ったのだが、「さすり」という創作こけしで、工場も本店も自宅も何もかも流されてしまった大津波から半年後、ささ圭さんがようやく催事に出演できた日に、偶然に再会することができた特別なものだったらしく、みちのく宮城から、「福興」の力をお届けいたしますという温かいメッセージが添えられていた。大切にしようと思う。

このツアーに参加でき、本当によかったと思う。価値のある2日間だった。現地で実際に被害に遭われた方々の声をきくことができ、貴重な体験となった。短い間だったが、参加者同士でも心の交流ができた。力強くまた新たに生まれ変わろうとしている町の姿をこの目で見られたこと、私は忘れないであろう。人はどんなときも立ち止まることなく、前に進まなければならないことを。